

2024 年度 研究所事業報告書

研究所名	白川静記念東洋文字文化研究所
------	----------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2024 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式 B に記述のうえ提出してください。

1) 学術研究事業

①第 19 回立命館白川静記念東洋文字文化賞 学外選考委員も加わって、優秀賞は『六朝艶詩研究』の著者の大村一人氏、奨励賞は『中国・日本の詩と詞』の靳春雨氏、『百二十回本『水滸伝』の研究』の中原理恵氏、『医学と儒学』の向静静氏と決定し、6 月 8 日に表彰式を仲谷善雄学長臨席のもとで開催し、東洋の文字文化の進展を図った。

②研究紀要の刊行 『漢字学研究』第 12 号、『立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要』第 18 号を刊行し、学術成果の社会発信を行った。

③国際会議の主催 南京大学域外漢籍研究所・高麗大学校漢字漢文研究所との学術協定に基づき「第 8 回東亜漢籍交流国際学術会議」を 12 月 7・8 日に開催し、日中韓の国際学術交流を行った。

④立命館土曜講座の担当 2024 年 7 月の「立命館土曜講座」を第 2 研究プロジェクトが担当し、「漢籍の東西伝播」を全体テーマとして、慶應義塾大学名誉教授の佐藤道生氏による「平安貴族の読書―藤原道長はどうして漢籍を蒐集したか」と高井龍客員研究員の「敦煌文獻に見る漢籍の伝播」の講演を実施した。

⑤研究会活動 第 1 研究プロジェクトは、「漢字学研究会」9 回開催して研究発表を行うほか、河南省安陽の殷墟遺跡の調査を実施。第 2 プロジェクトは、25 年 3 月に「朝鮮渡り唐本研究」と「日中韓文人交流研究会」の研究成果発表会を開いた。台湾の客員協力研究員の参加もあって、国際会議としての成果が得られた。第 3 プロジェクトは、中国の客員協力研究員も参加した共同研究で近衛家熙の『豫楽院殿詩文集』の解説を 8 回開催、川崎佐知子研究員が中国の福州大学で「江戸時代公家の茶湯と漢詩」の講演を行い、江戸時代を代表する公家文化人の近衛家熙の漢学に関する功績を明らかにすることができた。また国立国語学研究所『日本語歴史コーパス』等を用い、日本語の文字・漢字・漢語の研究を進め、文学作品・古記録・古文書を用いた統計的手法を活用した日本語史研究を実施し、一定の成果をあげた。『賀茂旧記』研究においても、論文の公刊、国際学会報告や国内の講演等に研究成果を示した。2024 年 12 月の研究会は第 1 プロジェクトと共同で実施し相応の成果を上げた。カザフスタン関係は、2024 年 3 月と11月の2回、各数名の研究者が来学、衣笠キャンパスでのワークショップに参加した。

⑥連続公開講座 高島敏夫客員研究員による「《金文講座》―白川静『金文通釈』に沿って」を全 5 回開催。白川博士の重要な研究を市民向けに分かりやすく解説し、社会の文化発展に寄与した。

2) 教育文化事業

①白川静巡回展 京滋の系列校のほか、立命館慶祥中学高等学校と田中学園立命館慶祥小学校、初芝立命館中学高等学校で開催した。保護者の参加もあって、立命館が生んだ白川静博士の学問を広く伝える好機となった。

②『白川静から学ぶ 成り立ちとつながりでわかる漢字ノート』の刊行 「白川字説」に依拠した新しい漢字学習の教材として編集、平凡社から出版した。中高の生徒から一般の人々を対象とし、研究所の「知」の発信を広範に及ぼした。

③体験型漢字講座「漢字探検隊」 京都市・福島市などほか、初めて岐阜県で催し、開始以来、通算 265 回に達した。

④学内外機関との連携 学園内では慶祥小学校、立命館小学校・同中学高校、立命館守山中学高校での「白川漢字」学習の取り組みを支援した。学外では、(公財)日本漢字能力検定協会との連携による「漢字教育士」の養成(通算 1100 名を超える)や産経新聞との共催事業「第 15 回創作漢字コンテスト」を開催した。

⑤地方自治体との連携 福井県における「白川文字学」に基づく漢字教育・生涯学習の支援のほか、京都市・福知山市・姫路市生涯学習大学校・大阪府河内長野市などで出張の漢字講座を行った。こうした活動を通して社会教育に寄与した。

Ⅱ. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2025 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員 (PD・RPD)

役割		氏名	所属	職位
研究所長		芳村 弘道	文学部	教授
運営委員		萩原 正樹	文学部	教授
		上野 隆三	文学部	教授
		松本 保宣	文学部	教授
		石井 真美子	文学部	教授
		川崎 佐知子	文学部	教授
		中本 大	文学部	教授
		尾崎 順一郎	文学部	准教授
		湊 宣明	テクノロジー・マネジメント研究科	教授
		前田 亮	情報理工学部	教授
		大形 徹	衣笠総合研究機構	教授
		杉橋 隆夫	衣笠総合研究機構	研究顧問
		加地 伸行	衣笠総合研究機構	研究顧問
		後藤 文男	衣笠総合研究機構	上席研究員
学内教員 (専任教員、研究系教員等)		井上 充幸	文学部	教授
		金津 日出美	文学部	教授
		大田 壮一郎	文学部	教授
		小椋 秀樹	文学部	教授
		岡崎 友子	文学部	教授
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	愛新覚羅 閼和	衣笠総合研究機構	専門研究員
		六車 楓	衣笠総合研究機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント	高 語莎	文学研究科	博士課程後期課程
	③ 大学院生	鄭 玲玉	文学研究科	博士課程後期課程
		張 志偉	文学研究科	博士課程後期課程
		兒玉 力哉	文学研究科	博士課程前期課程
		孫悦妍	文学研究科	博士課程後期課程
		陳銘	文学研究科	博士課程後期課程
		石谷 詩穂里	文学研究科	博士課程前期課程
		西山 直輝	文学研究科	博士課程前期課程
		劉 安祺	文学研究科	博士課程後期課程
		砂田 和輝	文学研究科	博士課程後期課程
		ハラシムック=ラトッシュ・ユステイナ	文学研究科	博士課程後期課程

	④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)	藤田 裕子	独立行政法人日本学術振興会	特別研究員 PD
その他の <u>学内者</u> (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)		今場 正美	文学部	非常勤講師
		松尾 肇子	文学部	授業担当講師
		高井 龍	文学部	授業担当講師
		中原 理恵	文学部	授業担当講師
		山田 崇仁	文学部	非常勤講師
		落合 淳思	文学部	非常勤講師
		松川 雅信	文学部	授業担当講師
		宮本 紗代	産業社会学部	授業担当講師
		許 曉璐	文学部	授業担当講師
		花田 卓司	文学部	非常勤講師
客員協力研究員		楊月英	常州師範学院	講師
		魯 耀翰	高麗大学校	研究教授
		臧克和	白川静記念東洋文字文化研究所	上席研究員
		王睿	海南大学	副研究員
		唐鈺	立命館大学	授業担当講師
		劉宏輝	華東師範大學	講師
		李寅雨	白川静記念東洋文字文化研究所	客員協力研究員
		黄庭頌	政治大學	助教
		松尾肇子	立命館大学	授業担当講師
		張宇衛	台湾大学	副教授
		上島理恵子	白川静記念東洋文字文化研究所	客員協力研究員
		庄婕淳	中国惠州学院	専任教師
		花田卓司	帝塚山大学	准教授
		阪谷昭弘	花園中学高等学校	教諭
		王瑞	復旦大学	博士研究員
		中原理恵	京都大学	人文学連携研究者
		余 筠琚	台湾大学	助理教授
		詹千慧	彰化師範大学	助理教授
		張 莉 (出野文莉)	大阪教育大学	教授
		笠川 直樹	京都精華学園	理事
		草野 友子	大阪大学	非常勤講師
		末次 信行	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
		秋山 陽一郎	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
		佐藤 信弥	大阪公立大学	客員研究員
		村上 幸造	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
		山本 堯	泉屋博古館	学芸員

	山田 明広	奈良学園大学	准教授
	楊 氷	大阪公立大学	非常勤講師
	白須 裕之	京都大学	助教
	島山 奈緒子	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
	井ノ口 哲也	東京学芸大学	教授
	高田 宗平	中央大学文学部	兼任講師
	三輪 健介	有限会社啓鉄工所	社員
	西山 尚志	埼玉大学	准教授
	小倉 聖	大東文化大学	非常勤講師
	李 強	大阪物療大学	教授
	梁 曉虹	南山大学	教授
	重信 あゆみ	大阪公立大学	客員研究員
	安永 知晃	関西学院大学	非常勤講師
	多田 伊織	大阪公立大学	客員研究員
	志賀 市子	茨城キリスト教大学	教授
	周 祖亮	広西中医薬大学	教授
	山本 優紀子	大阪公立大学	客員研究員
	高橋 あやの	大東文化大学	准教授
	望月 めぐみ	京都伝統工芸大学校	非常勤講師
	小野 響	電気通信大学大学院	講師
	関屋 成彰	せきや鍼灸院	院長
	猪俣 貴幸	京都外国語大学	非常勤講師
	高島 敏夫	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
	石川 大我	株式会社早川書房	社員
	猪飼 祥夫	日本医史学会	関西支部長
	郭 雪妮	陝西師範大学	教授
	黄 鶯	福州大学	講師
その他の学外者	住吉 朋彦	慶應義塾大学	教授
	沈 慶昊	高麗大学校	教授
	金 程宇	南京大学	教授
	富 嘉吟	お茶の水女子大学	助教
	靳 春雨	志学館大学	講師
	村田 右富実	関西大学	教授
	笹原 宏之	早稲田大学	教授
	名和 敏光	山梨県立大学	准教授
	熊野 弘子	森ノ宮医療大学	准教授
	久保 輝幸	横浜商科大学	准教授
	横大路 綾子	京都西山高校	非常勤講師

	陳 逸文	東呉大学	助理教授
	佐古 愛己	佛教大学	教授
	向 静静	立命館アジア・日本研究機構	准教授
研究所構成員 計 110 名 (うち学内の若手研究者 計 14 名)			

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2025 年 3 月 31 日時点)
また、書式 B の研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	湯浅邦弘	中国古典の生かし方：仕事と人生の質を高める 60 の名言	単著	2024 年 6 月	NHK出版		全 256 頁
2	湯浅邦弘	石碑に学ぶ種子島の歴史：鉄砲伝来四百八十周年：西村天因没後百年記念	共著	2024 年 7 月	西之表市企画課歴史文化活用係	竹田健二	全 132 頁
3	湯浅邦弘	近代人文学の形成：西村天因の生涯と業績	単著	2024 年 10 月	汲古書院		全 630 頁
4	張莉	漢字は語る—こわくてゆかいな漢字の生い立ち (一・二年生)	単著	2024 年 6 月	朋友書店		全 170 頁
5	川崎佐知子	中野康章旧蔵『鹿百首』について	共著	2024 年 5 月	武蔵野書院、日本古典文学の言葉と思想		PP. 327-337
6	岡崎友子	The history of demonstratives	共著	2024 年 4 月	Handbook of historical Japanese linguistic	金水敏ほか	Chap17

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	富嘉吟	「新見晩唐類書『雙金』攷」	単著	2024 年 5 月	北京大学出版社、『唐研究』第 17 号		PP.205-216	有
2	尾崎順一郎	「清代前期における高攀龍『朱子節要』の受容について」	単著	2024 年 6 月	中國藝文研究会『學林』第 78 号		PP.171-228	無
3	鄭玲玉	「蘇轍の第一次筠州時代の交遊について—毛維瞻との交遊を中心として—」	単著	2024 年 6 月	中國藝文研究会『學林』第 78 号		PP.91-127	有
4	住吉朋彦	「天理図書館蔵五山版考述(四)」	単著	2024 年 10 月	天理大学、『ビブリア』第 162 号		PP.25-75	無
5	芳村弘道	「立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所新収書籍・資料の紹介」	単著	2025 年 3 月	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所、『立命館白川静記念東洋文字文化研究所紀要』第 18 号		PP.53-64	無
6	佐藤信弥	春秋諸侯の西周史認識	単著	2024 年 4 月	『中国出土資料研究』第 28 号		PP.88-99	有
7	山本堯	胡銅製作技法研究序説—野村美術館所蔵品の調査から—	共著	2024 年 4 月	『野村美術館研究紀要』第 33 号	伊住禮次朗・樋口陽介・新郷英弘	PP.88-99	有
8	山本堯	西周・大保貞	単著	2024 年 4 月	『國華』第 1541 号		PP.88-99	有
9	山本堯	二里頭期・二里岡期爵の鑄型構造と製作技法	単著	2024 年 4 月	『FUSUS』16 号	内田純子・樋口陽介・廣川守・新郷英弘	PP.88-99	有
10	山本堯	爵の命名と機能—新出土資料による再検証—	単著	2024 年 4 月	『駒澤考古』第 49 号		PP.88-99	有

11	六車楓	清華簡『湯在甬門』の 身體と生命、疾病： 「成人」を中心に	単著	2024 年 4 月	『學林』第 78 号		PP.88-99	有
12	楊冰	中国の古典詩歌「詞」 における愛の造形： 李煜の作品における 「愁」から見る	単著	2025 年 3 月	人文学論集 43,『人文学論集』 編集委員会		PP.25-39	有
13	川崎佐知子	『鹿百首』中野康章 旧蔵本の翻刻	単著	2024 年 8 月	立命館大学人文学会、立命館 文学、689		PP. 55-64	有
14	川崎佐知子	西園寺文庫「御会集」 による近世御会和歌 目録	単著	2025 年 3 月	白川静記念東洋文字文化研究 所、立命館白川静記念東洋文 字文化研究所紀要、18		PP. 1-32	有
15	小椋秀樹	青木博史・岡崎友子・ 小木曾智信編『コー パスによる日本語史 研究：中古・中世編』	単著	2024 年 8 月	立命館大学アジア・日本研究 書、立命館アジア・日本研究学 術年報、5		PP.124-128	

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	芳村弘道	「專題演講 中日韓的漢籍 伝播：「朝鮮渡唐本」之調査、 研究」	2024 年 4 月	「書籍与伝播——第八届中国古典文献 学国際学術研討会」台北、東吳大学	
2	芳村弘道	基調講演 「日本中世の禪 僧による杜詩解釈—杜詩の 「抄物」について」	2024 年 7 月	《近代東アジア語文学と杜甫》国際学 術会議、韓国ソウル、成均館大学校、	
3	芳村弘道	立命館大学白川静記念東洋 文字文化研究所新収書籍・ 資料の紹介	2025 年 3 月	2024 年度「朝鮮渡り唐本研究」と「日 中韓文人交流研究」の研究成果報告会、 立命館大学衣笠キャンパス	
4	松尾肇子	「近衛家家主対東坡的仰 慕」	2024 年 11 月	海南省第二屆東坡文化国際論壇、中国、 海南大学	
5	萩原正樹	大阪天満宮所蔵(近藤元粹 旧蔵)の『草堂詩余』につい て」	2024 年 11 月	中国芸文研究会 研究会	
6	尾崎順一郎	「新安理学と“五子近思録” 系列文献の編纂について」	2024 年 12 月	第 8 回東亜漢籍交流国際学術会議、立 命館大学衣笠キャンパス	
7	尾崎順一郎	「陸龍其『三魚堂書目』と 清初朱子学」	2025 年 3 月	2024 年度「朝鮮渡り唐本研究」と「日 中韓文人交流研究」の研究成果報告会、 立命館大学衣笠キャンパス	
8	中原理恵	「《皇元風雅》 版本考」	2024 年 12 月	第 8 回東亜漢籍交流国際学術会議、立 命館大学衣笠キャンパス	
9	中原理恵	「宋元版を主とする『王狀 元集注東坡先生詩』につい て」	2025 年 3 月	2024 年度「朝鮮渡り唐本研究」と「日 中韓文人交流研究」の研究成果報告会、 立命館大学衣笠キャンパス	
10	富嘉吟	『文苑英華纂要』攷」	2024 年 12 月	第 8 回東亜漢籍交流国際学術会議、立 命館大学衣笠キャンパス	
11	大形徹	馬王堆出土房中書中の重複 記述	2024 年 6 月	主旨報告 前掲写本文献与東亜伝統医 学、学術研討会	
12	六車楓	清華簡『五紀』中的身体、 方位和宇宙	同上	同上	
13	向静静	合信的漢訳著作在日本：从 幕府医官喜多村直寬的医学 思想轉變談起	同上	写本文献と東アジアの伝統医学	

14	島山奈緒子	太田家（太田典礼家）蔵書紹介	同上	写本文献と東アジアの伝統医学	翻訳 孔令竹
15	大形徹	馬王堆漢墓帛画与『莊子』内篇的生死觀	2024 年 8 月	『馬王堆漢墓考古發掘五〇周年国際學術研討会』	孔令竹
16	大形徹	馬王堆出土『十問』的“天地之請”是“天地之情”還是“天地之精”	2024 年 10 月	第十屆世界漢字学会年會、華東師範大學	
17	張莉	關於日本漢學家白川靜文字學的系列字	同上	同上	
18	佐藤信弥	商王武丁的疾病	同上	同上	
19	大形徹	『十問』的“云柏（魂魄）”與『反淫』的“魂”和“魄”	2024 年 11 月	西南大學漢語言文獻研究所建所四〇周年紀念會暨古文字与古文献国際學術研討会	
20	佐藤信弥	從記載同一事件的金文看西周金文之製作意圖	同上	同上	
21	佐藤信弥	弁偽の偽—近年の金文・簡牘の偽作説をめぐって	2024 年 4 月	二〇二四年度史学研究会例会 テーマ「嘘」京都大学	
22	佐藤信弥	殷王武丁的疾病	2024 年 9 月	東アジア恊異学会第百五十回定例研究会、園田学園女子大学	
23	佐藤信弥	甲骨四堂と日本	2024 年 11 月	阪神中哲談話会第四百七回例会、奈良教育大学	
24	六車楓	安大簡『仲尼曰』「管仲善善哉、老訖」の解釈—「老」は「寿」の意味か—	2024 年 9 月	第七十八回中国出土文献研究会	
25	六車楓	『論語』雍也“仁者寿”所見古代中国的寿思想	2024 年 11 月	広西中医薬大学基礎医学院、學術報告講演会	
26	山本堯	殷周金文の書体変遷とその背景—鑄造技術の観点から—	2024 年 12 月	「中国生活文化の思想史」研究班第十八回研究会、京都大学人文科学研究所	
27	向静静	喜多村直寛における医学思想の変容：ホブソン漢文西洋医書からの影響	2024 年 9 月	第百二十五回日本医史学会総会・學術大会	
28	向静静	近世・近代の日中医学交流史から：人と医書の「環流」解明と今後の課題	2024 年 10 月	、向静静「近世・近代の日中医学交流史から：人と医書の「環流」解明と今後の課題」（第五十二回日本東洋医学会・中四国支部総会・高知大会）	
29	関屋成彰	『黄帝甲乙經』と御薊常斌について	2024 年 9 月	日本医史学会、第百二十五回學術大会、茨城	
30	関屋成彰	『生生堂塾經』と『生生堂鍼灸經』について	2024 年 10 月	日本伝統鍼灸学会第五十二回學術大会、東京	
31	関屋成彰	寺西家伝灸について	2024 年 11 月	日本鍼灸史学会、第三十二回學術大会、京都	
32	関屋成彰	『漢洋医事問答并論医絶句』について	2024 年 12 月	日本医史学会関西支部、秋季學術集会、京都	
33	大形徹	从考古学、甲骨文、神仙思想来看龍の歴史——直到投龍	2025 年 2 月	「投龍——从山川祭祀到洞天福地」展專題座談会、浙江省博物館	
34	川崎佐知子	陽明文庫蔵『予楽院殿詩文集』20 番詩会誦	2024 年 5 月	第 29 回近衛家の漢学研究会、衣笠キャンパス	
35	川崎佐知子	陽明文庫蔵『予楽院殿詩文集』25 番詩会誦	2024 年 7 月	第 31 回近衛家の漢学研究会、衣笠キャンパス	
36	川崎佐知子	陽明文庫蔵『予楽院殿詩文集』31 番詩会誦	2024 年 11 月	第 34 回近衛家の漢学研究会、衣笠キャンパス	
37	中本大	陽明文庫蔵『予楽院殿詩文集』36 番詩会誦	2025 年 2 月	第 37 回近衛家の漢学研究会、衣笠キャンパス	
38	川崎佐知子	陽明文庫蔵『予楽院殿詩文集』39 番詩会誦	2025 年 3 月	第 38 回近衛家の漢学研究会、衣笠キャンパス	
39	中本大	陽明文庫蔵『予楽院殿詩文集』18・19 番詩	2024 年 4 月	第 28 回近衛家の漢学研究会、衣笠キャンパス	
40	中本大	陽明文庫蔵『予楽院殿詩文集』30 番詩会誦	2024 年 11 月	第 34 回近衛家の漢学研究会、衣笠キャンパス	

41	大田壮一郎	コメントー中世後期研究の立場からー	2024 年 6 月	JSPS 科研費「中近世移行期の門跡に関する史料学的研究」成果報告シンポジウム「中・近世門跡論の可能性を探る」	
42	岡崎友子	現場調査からみる指示詞の指示領域ー評価・感情によるコソアの選択ー	2024 年 12 月	日本語文法学会第 25 回大会	
43	佐古愛己	奈良・平安時代の官人・貴族社会における疾病と欠勤	2024 年 12 月	大学コンソーシアム京都	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第8回東亜漢籍交流国際学術会議	衣笠キャンパス	2024 年 12 月	60 名	南京大学域外漢籍研究所・高麗大学校漢字漢文研究所
2	2024 年度「朝鮮渡り唐本研究」と「日中韓文人交流研究」の研究成果報告会	衣笠キャンパス	2025 年 3 月	20 名	
3	漢字学研究会 笠川直樹：「楚王鼎」	キャンパスプラザ 京都。第 116 回 14:00-17:00	2024 年 4 月	14 名	
4	東アジア漢字文化圏の疾病・疫病観の史的・現代的展開：鬼系病因論の起源と思想的水脈研究会 石井真美子：「夏越の祓と祇園祭」	同上 13:00-14:00	同上	同上	漢字学研究会
5	漢字学研究会 笠川直樹「楚王鼎」 佐藤信弥「否叔尊／卣」	キャンパスプラザ 京都。第 117 回 14:00-17:00	2024 年 5 月	18 名	
6	東アジア漢字文化圏の疾病・疫病観の史的・現代的展開：鬼系病因論の起源と思想的水脈研究会 落合淳思：「殷墟甲骨文に見える祖霊病因とその変遷―附：殷代の「鬼」について・甲骨占卜について―」	同上 13:00-14:00	同上	同上	漢字学研究会
7	漢字学研究会 安東麟：「『商周古文字読本』甲骨文 20 片・21 片」 佐藤信弥：「否叔尊／卣」 秋山陽一郎「酈王職壺」	キャンパスプラザ 京都。第 118 回 14:00-17:00	2024 年 6 月	18 名	
8	東アジア漢字文化圏の疾病・疫病観の史的・現代的展開：鬼系病因論の起源と思想的水脈研究会 佐藤信弥：「殷王武丁の疾病」	同上 13:00-14:00	同上	同上	漢字学研究会
9	写本文献与東亜伝統医学学術研討会（主催：立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所）。第一プロジェクトから大形徹（十五日主旨報告・十六日閉幕式総結発言）・六車楓（研究発表・司会）・向静静・熊野弘子・島山奈緒子（研究発表）・久保輝幸（司会）が参加。	上海中医薬大学	2024 年 6 月	50 名	共催：上海中医薬大学科技人文研究院・上海中医薬大学図書館
10	漢字学研究会 秋山陽一郎：「酈王職壺（続き）」 村上幸造：「𠄎敬乃夙夜、句解」 山田崇仁：「金文通解担当時に使用するインターネットリソース」	キャンパスプラザ 京都。第 119 回 14:00-17:00	2024 年 7 月	21 名	
11	東アジア漢字文化圏の疾病・疫病観の史的・現代的展開：鬼系病因論の起源と思想的水脈研究会 周祖亮：「中国出土簡帛医药文献禁忌探析」	同上 13:00-14:00	同上	同上	漢字学研究会
12	漢字学研究会 山田崇仁：「河南省研究旅行報告（JSPS 科研費 23K21878）」 末次信行：「新出資料紹介」 山田崇仁：研究発表「楚公遽鐘と西周中期の楚」	キャンパスプラザ 京都。第 120 回 14:00-17:00	2024 年 9 月	21 名	
13	東アジア漢字文化圏の疾病・疫病観の史	同上	同上	同上	漢字学研究会

	的・現代的展開：鬼系病因論の起源と思想的水脈研究会 山里純一：「琉球の呪歌『疱瘡歌』について」	13:00-14:00			
14	漢字学研究会 山田崇仁：研究発表「楚公遽鐘と西周中期の楚」	キャンパスプラザ 京都。第 121 回 14:00-17:00	2024 年 10 月	6 名	
15	東アジア漢字文化圏の疾病・疫病観の史的・現代的展開：鬼系病因論の起源と思想的水脈研究会 佐古愛己：「奈良・平安時代の官人・貴族社会における疾病と欠勤」	同上 13:00-14:00	2024 年 12 月	同上	漢字学研究会
16	漢字学研究会 佐藤信弥：金文通解原稿形式について説明 佐藤信弥：学会参加報告：世界漢字学会第十届年会 三輪健介：呂簋（銘圖 5257）	キャンパスプラザ 京都。第 122 回 14:00-17:00	2025 年 1 月	18 名	
17	東アジア漢字文化圏の疾病・疫病観の史的・現代的展開：鬼系病因論の起源と思想的水脈研究会 山本聡美：「疫病と発願—古代日本における為政者の造像」	同上 13:00-14:00	同上	同上	漢字学研究会
18	漢字学研究会 秋山陽一郎：「二十九年弩機」	キャンパスプラザ 京都。第 123 回 15:00-17:00	2025 年 2 月	16 名	
19	東アジア漢字文化圏の疾病・疫病観の史的・現代的展開：鬼系病因論の起源と思想的水脈研究会 名和敏光：「𠂔、𠂔、𠂔 字について」 陳捷：『閔微草堂筆記』における鬼因疾病の記載について	同上 13:00-15:00	同上	同上	漢字学研究会
20	『千金翼方』研究会 島山奈緒子・村上幸造・名和敏光・大形徹他	18:30-20:00	隔週木曜日、年間 20 回程度	10～15 名程度	東アジア漢字文化圏の疾病・疫病観の史的・現代的展開：鬼系病因論の起源と思想的水脈研究会
21	第 28 回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2024 年 4 月	7 名	
22	第 29 回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2024 年 5 月	7 名	
23	第 30 回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2024 年 6 月	7 名	
24	第 31 回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2024 年 7 月	7 名	
25	第 32 回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2024 年 9 月	8 名	
26	第 33 回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2024 年 9 月	8 名	
27	第 34 回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2024 年 11 月	7 名	
28	第 35 回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2024 年 11 月	7 名	
29	第 36 回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2025 年 1 月	7 名	
30	第 37 回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2025 年 2 月	7 名	
31	第 38 回近衛家の漢学研究会	衣笠キャンパス	2025 年 3 月	7 名	
32	カザフスタンにおける東アジア文献の所在と研究	衣笠キャンパス	2024 年 7 月	6 名	
33	教育・科学分野におけるカザフ・日本の協力関係	衣笠キャンパス	2024 年 11 月	10 名	
34	地域外交と大学間協力	衣笠キャンパス	2024 年 11 月	11 名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間

1	高井 龍	「敦煌文献に見る漢籍の伝播」	第 3408 回立命館土曜講座	2024 年 7 月
2	井ノ口哲也	説文	『中国／日本〈漢〉文化大事典』（川合康三・大谷雅夫・黒田真美子・小島毅・後藤昭雄 編、明治書院、二〇二四）の項目執筆	2024 年 4 月
3	草野友子	書評 武漢大学簡帛研究中心等編『楚地出土戰國簡冊合集』	學林 / 中國藝文研究會 編 (78), 229-243, 京都 : 中國藝文研究會	2024 年 6 月
4	大形徹	先生	Eテレ「漢字ふむふむ」(再放送)	2025 年 1 月
5	大形徹	貨幣に潜む国号、年号	立命館広報誌、RADIANT 立命館大学研究活動報 〔特集〕お金 issue23 September 2024	2024 年 9 月
6	大形徹	「莊子と語る」(連載)	東大阪新聞 (毎月連載)	継続中
7	大形徹	「漢字学」講義	放送大学天王寺校	2024 年 6 月, 10 月
8	大形徹	『莊子』を読む	上本町近鉄文化サロン (毎月第土曜日午前中)	継続中
9	大形徹	書画篆刻のススメ	上本町近鉄文化サロン (隔月第土曜日午後)	継続中
10	張莉	『見る』と『聞く』の漢字の成り立ち	京都高齢者大学校「東アジアの文化芸術」	2024 年 5 月 1 日
11	張莉	児童の能力を生かす認字教育	関西漢字教育サポーターの会	2024 年 6 月 9 日
12	張莉	日本列島への漢字の受容	みのお中国文化に親しむ会	2024 年 7 月 30 日
13	張莉	漢字は古代のタイムカプセル	鴻の池禅友会	2024 年 8 月 18 日
14	張莉	西双版纳の旅―「倭人」のルーツを求めて (その 1)	「日中友好新聞」京都府連版 連載 : 337 号	2024 年 8 月 1 日
15	張莉	西双版纳の旅―「倭人」のルーツを求めて (その 2) 基諾族の村にて	同 338 号	2024 年 9 月 1 日
16	張莉	西双版纳の旅―「倭人」のルーツを求めて (その 3) 高床式住居文化とは	同 339 号	2024 年 10 月 1 日
17	張莉	西双版纳の旅―「倭人」のルーツを求めて (その 4) 哈尼族の村で鳥居の原型を見た	同 340 号	2024 年 11 月 1 日
18	張莉	西双版纳の旅―「倭人」のルーツを求めて (その 5) 千木と鯉木と注連縄	同 341 号	2024 年 12 月 1 日
19	張莉	中国の筆法から学ぶ書法Ⅰ	大阪教育大学 公開講座 : 全 6 回	2024 年 4 月 18 日～2024 年 6 月 27 日
20	張莉	中国の筆法から学ぶ書法Ⅱ	大阪教育大学 公開講座 : 全 6 回	2024 年 11 月 7 日～2024 年 12 月 12 日
21	笠川直樹	白川文字学講義	姫路生涯教育大学校	2024 年 4 月～2024 年 9 月
22	向静静	日本・中国食と薬の文化交流の講座 : 医薬養生から見る中国	NPO 大阪府高齢者大学校	2024 年 7 月 22 日
23	向静静	日本・中国食と薬の文化交流の講座 : 医食同源論から見る中国	同上	2024 年 7 月 29 日
24	望月めぐみ	個展「魂交」	祇をん小西 (京都)	2024 年 6 月
25	望月めぐみ	京都伝統工芸大学校和紙工芸専攻、実習指導	京都伝統工芸大学校	2024 年 6 月～2024 年 7 月
26	望月めぐみ	合同展「KOMOMA - Melt the Boundaries」	Espai29 (スペイン)	2024 年 10 月
27	望月めぐみ	個展「切り絵作家望月めぐみ展」	興福寺 (奈良)「阿修羅像」「華原磬」を題材とした切り絵作品の制作、発表。	2024 年 11 月
28	望月めぐみ	孔子学院講座「剪纸から切り絵へ」	立命館大学、孔子学院	2024 年 12 月
29	川崎佐知子	嵯峨本願寺藏『和漢六歌仙板額』の歌仙・詩仙について	福州大学琴南講座外国語学院第 76 回、福州大学旗山地区外国語学院 (中国・福建省)	2025 年 3 月 6 日
30	川崎佐知子	江戸時代公家の茶湯と漢詩	中華詩詞文化創造性転化和創新性發展国際學術研討会、福州大学旗山地区 (中国・福建省)	2024 年 11 月 30 日
31	川崎佐知子	京都で伝えたい「源氏物語」の魅力	リビング京都中央 1 面、2024 年 1 月 27 日 2097 号掲載	2024 年 1 月

32	杉橋隆夫	会長あいさつ	京都静岡県人会だより 2024 年度 3 号分	2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日
33	杉橋隆夫	香陵列伝 第 23 弾	沼津東高新聞 第 207 号	2024 年 12 月 11 日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	靳春雨	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所	第 18 回立命館白川静記念東洋文字文化賞	奨励賞	2024 年 6 月
2	中原理恵	立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所	第 18 回立命館白川静記念東洋文字文化賞	奨励賞	2024 年 6 月
3	向 静静	白川静記念東洋文字学研究所	立命館白川静記念東洋文字文化賞奨励賞	『医学と儒学—近世東アジアの医の交流』（人文書院、2023 年）	2024 年 6 月

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	富嘉吟	『玉燭宝典』研究の基礎づくりに向けて	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
2	高井龍	神仏の融合・複合の形成史の比較研究——日本とアジアの国々との様相を対比して	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
3	中原理恵	明清時代の中国における出版、流通事情の研究	若手研究	2023 年 4 月	2028 年 3 月	代表
4	中原理恵	江戸幕府紅葉山文庫の再構と発信—宮内庁書陵部収蔵漢籍のデジタル化に基づく古典学—	基盤研究(A)	2020 年 4 月	2025 年 3 月	分担
5	尾崎順一郎	「新安理学」の脱構築—中国近世の程朱闕里における思想の変遷に関する通時的考察	基盤研究(B)	2021 年 4 月	2025 年 3 月	分担
6	尾崎順一郎	中国近世における儒教徒の教学活動に果たした書院の役割に関する思想史的研究	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	分担
7	井上充幸	名古屋蓬左文庫蔵『銅人シュ穴鍼灸図経』に見る 17 世紀東アジア文化交流史の具体相	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
8	藤田優子	宋・元・明における歌辞文芸の通時的展開に関する研究	若手研究	2024 年 4 月	2028 年 3 月	代表
9	村田右富実	上代特殊仮名遣いを区別した『万葉集』の複数テキスト構築とその統計学的研究	基盤研究(C)	2020 年 4 月	2025 年 3 月	代表
10	大形徹	古代東アジアの祥瑞と王権：漢～唐代成立の瑞獸画像をめぐる学際的研究	基盤研究(B)	2021 年 4 月	2025 年 3 月	分担
11	志賀市子	中国地方道教史における扶鸞文化の革新的役割に関する学際的研究	基盤研究(C)	2021 年 4 月	2025 年 3 月	代表
12	松川雅信	近世日本における朱熹『家礼』の実践と影響に関する研究—儒式喪祭礼の多角的展開	基盤研究(C)	2021 年 4 月	2025 年 3 月	代表
13	落合淳思	漢字の部首（字素・意符）の多様性とその時代的変遷	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
14	佐藤信弥	同上	同上	同上	同上	分担
15	山田崇仁	中国殷周金文のデジタルテキスト作成に関する基礎的研究	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
16	大形徹	東アジア漢字文化圏の疾病・疫病観の史的・現代的展開：鬼系病因論の起源と思想的水脈	基盤研究(B)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
17	佐藤信弥	同上	同上	同上	同上	分担
18	山田崇仁	同上	同上	同上	同上	分担
19	名和敏光	同上	同上	同上	同上	分担
20	石井真美子	同上	同上	同上	同上	分担

21	落合淳思	同上	同上	同上	同上	分担
22	多田伊織	同上	同上	同上	同上	分担
23	名和敏光	中国古代術数学における占術と儀礼	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
24	小倉聖	同上	同上	同上	同上	分担
25	笹原宏之	現代日本における人名使用漢字の字種・字体・読み方に関する実証的研究	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
26	山本堯	同上	同上	同上	同上	分担
27	山本堯	図像・出土器物・文献資料による古代東アジアにおける饗宴システムの復元と比較研究	同上	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
28	六車楓	古代中国における身体観・生命観の総合的研究—新出土医学文献の読解を基礎に—	特別研究員奨励費	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
29	大形徹	道教の聖地としての洞天への巡礼と東アジアにおけるその思想文化に関する調査研究	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
30	白須裕之	『玉燭宝典』研究の基礎づくりに向けて	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
31	大形徹	『素女妙論』を中心とした東アジア近世の房中書・養生書の研究	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	分担
32	山本堯	周王の諸国統治の方策とその展開の形態—新出金文を手がかりとして	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	分担
33	草野友子	戦国秦漢簡牘による中国古代思想史研究—故事・教訓書・女性関係文献を中心に—	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
34	重信あゆみ	中国の女神形成に関わる西方図像の影響についての研究	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
35	高田宗平	中国近世における考証学の発展に関する基礎的研究	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	分担
36	高田宗平	中国の怪異・亀卜をめぐる知識と技術の日本における展開	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
37	高橋あやの	天文・五行占に対する国家統制とそれによる変容—中国と周縁諸国の比較を中心として	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	分担
38	佐古 愛己	古代中世日本における人事昇進制度の体系的把握と日唐宋麗比較史的研究	基盤研究(C)	2021 年 4 月	2025 年 3 月	代表
39	小椋秀樹	大規模コーパスに基づく明治・大正時代における字音接辞の実態解明	基盤研究 (C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
40	岡崎友子	古代・現代日本語における指示体系の解明	基盤研究 (C)	2020 年 4 月	2025 年 3 月	代表
41	佐古愛己	古代中世日本における人事昇進制度の体系的把握と日唐宋麗比較史的研究	基盤研究 (C)	2021 年 4 月	2026 年 3 月	代表
42	岡崎友子	評価性を伴う形式としての指示詞の研究	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
43	中本大	画題と画論および粉本の生成受容圏から見た中近世文芸の表象と展開に関する総合的研究	基盤研究 (B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
44	中本大	十八世紀画壇と禅宗の関わりの総合的研究—伊藤若冲周辺の画家・禅僧を中心に—	基盤研究 (B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	尾崎順一郎	第8回東亜漢籍交流国際学術会議の実施	一般財団法人橋本循記念会 研究交流活動助成	2024 年 6 月	2025 年 3 月	代表
2	島山奈緒子	「太田家（太田典禮生家）」史料研究会	一般財団法人橋本循記念会 中国伝統文化に関する研究交流活動助成	2024 年 5 月	2025 年 3 月	代表
3	高田宗平	平田篤胤関係資料の漢籍受容に関する総合的研究	歴博共同研究 館蔵資料型 国立歴史民俗博物館: 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
4	大形徹	同上	同上	同上	同上	分担

5	小椋秀樹	開かれた共同構築環境による通時コーパスの拡張	国立国語研究所 共同研究プロジェクト 機関拠点型基幹研究プロジェクト	2022 年 4 月	2026 年 3 月	プロジェクト構成員
---	------	------------------------	------------------------------------	------------	------------	-----------

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人 区分	発明人 区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国